

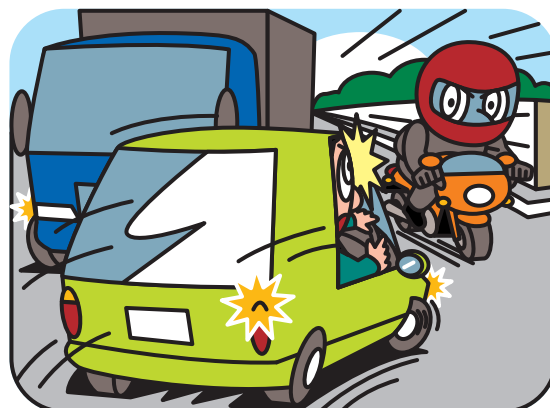
安全な運転を確保するためには、交通場面におけるさまざまな危険を予測することが重要なポイントになりますが、危険には「見える危険」だけでなく、死角に潜む「見えない危険」も数多くあります。「見えない危険」は発見が遅れやすく事故につながる可能性が大きくなります。

そこで今回は、特に交差点とその付近における「見えない危険」について考えてみましょう。

## 交差点の右折時

### 対向右折車を作る「見えない危険」

右折時に対向右折車がいると、その後方が死角となり、対向車線の状況が確認しにくくなります。特に対向右折車が大型車やワンボックスカーの場合には死角が大きくなり、死角部分から直進してくる二輪車などを見落とす危険が増します。対向車線の状況が確認しにくいときは、一気に右折するのではなく、徐々に進行して対向車線の状況が見えるところで一時停止して、対向車の有無を確認しましょう。



### 対向直進車を作る「見えない危険」

対向直進車が大型車の場合、その後方を走行している後続車の有無が確認できないことがあります。そのため対向直進車の通過直後にいきなり右折をすると、後続車と衝突する危険があります。対向直進車の通過後は一呼吸置いて、必ず後続車の有無を確認するようにしましょう。



### 対向左折車を作る「見えない危険」

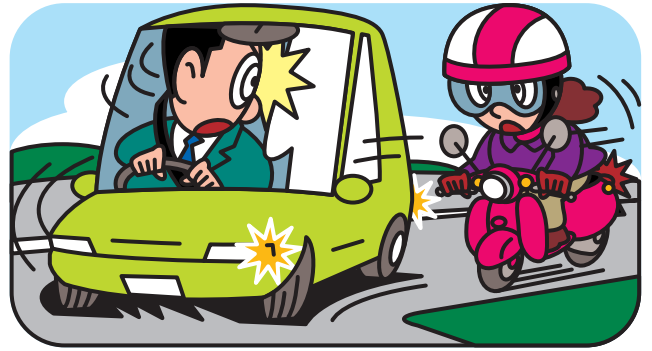
対向左折車が横断歩道の手前で停止すると、その向こう側が死角となって歩行者や自転車の有無が確認できないことがあります。このようなときに右折してそのまま横断歩道を通ようとする、横断してきた歩行者や自転車と衝突する危険があります。対向左折車が停止しているということは、横断歩行者や自転車がいますということですから、横断歩道の手前で必ず停止しましょう。





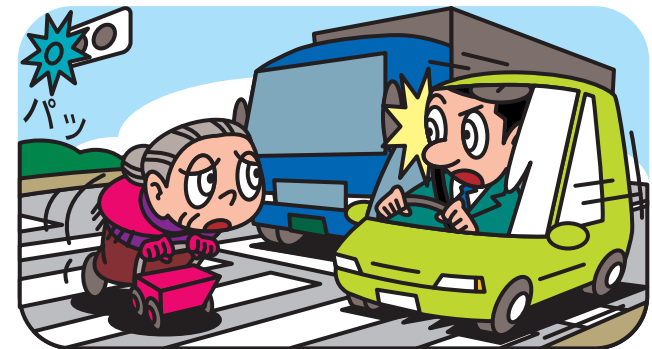
## 交差点の左折時

側方には、サイドミラー（ドアミラー）には映らない死角があります。特に二輪車は車体が小さいため死角に入りやすく、左折時に二輪車を見落として接触する危険があります。左折時はサイドミラーだけに頼るのではなく、少し振り返るなどして目視により側方の状況を確認するようにしましょう。



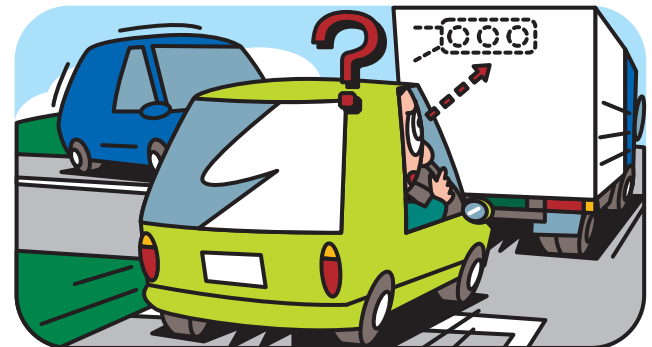
## 交差点の発進時

片側2車線以上の交差点において、先頭で信号待ちのために停車しているとき、側方に並んで停車している車両があると、横断歩道の状況が十分確認できないことがあります。このようなとき、信号が青に変わってすぐに発進すると、渡り遅れた歩行者や自転車が残っている危険があります。発進するときは、となりの車両の発進を確認するなど、左右の状況に注意しましょう。



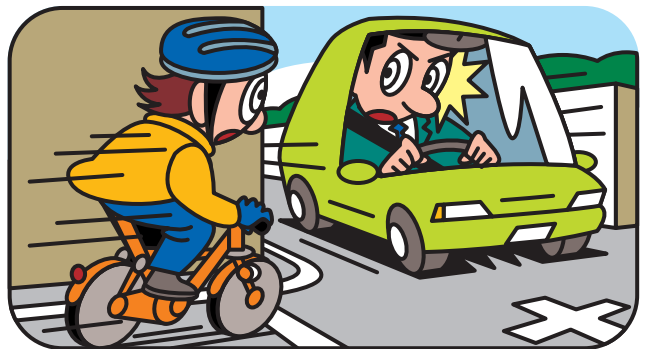
## 交差点への接近時

バスやトラックなどの大型車に追従して走行すると、前方の道路状況が見えにくくなります。そのため信号が確認できずに、赤信号で交差点に進入してしまう危険がありますから、できるだけ大型車に追従して走行するのは避けるようにしましょう。やむを得ず大型車に追従して走行する場合は、車間距離を十分にとるなどして前方の視界の確保に努めることが大切です。



## 見通しの悪い交差点

見通しの悪い交差点では、交差道路が死角となり、接近してくる車両が確認できません。したがって、一時停止の標識や標示がある場合は必ず一時停止して、左右の安全確認をしなければなりません。一時停止の標識や標示がない場合でも、「歩行者や自転車が飛び出てくるかもしれない」と考えて徐行し、しっかり左右を確認しましょう。



「ご相談・お申込先」